

【第1号議案】2025（令和7）年度 事業計画案 （別紙参照）

展示事業

【概略】

年間の開館日は252日間、休館日は113日間。展示替えのための休館日は、22日間を充てたい。2025（令和7）年度は、4月1日から企画展示3本と常設展示3本を計画（詳細は「別紙1」参照）。企画展示については紹介文化人の地元顕彰館もしくは顕彰団体と連携しながら、準備を進めていく。来館者については、前年度入館者数の目標達成率が51.8%であったため、2025年度の入場者目標数を少し抑えめに設定した。

イベント事業

【概略】

2025（令和7）年度は企画展示の関連事業として、展示協力者や顕彰館、関連団体などからゲストを招いて講演会など年間数本を予定。

調査及び研究・研修事業

【概略】

調査及び研究については、展示室内で紹介している文化人を中心とした基礎データを基に、データベース整備を継続している。郷土史家から協力いただき、埋もれている文化人の調査を進めている。

教育普及事業

【概略】

これまでと同様に、企画展示の解説会を会期中に複数回行う。

数年前から講師依頼を受けるので、当館で紹介する文化人の普及に努めたい。

（1）学芸員等による作品解説会（約30分）

企画展示の会期中、全3回の作品解説会を予定。開催によるリピーターと新規来館者増を期待する。

（2）実習生の受け入れ

2025（令和7）年度は受け入れ予定無し。

（3）外部講演など

教育機関や各種団体の要請により、職員が対応する。外部講演時に企画展示のPRや、副読本や相関図、かるた等の販売も実施したい。

(3) 似顔絵パンフレットや副読本、偉人かるたの活用

2024（令和6）年度まで印刷した文化人似顔絵パンフレット（A3二つ折り、カラー）を県内中学校の新一年生に配布していたが、2025年度からはPDFデータでの配布に変更する。この似顔絵パンフレットは2015年度発行の副読本『みんなで伝えよう　にいがた文化の記憶』の普及PR用に2017年度から作成している。

2018年度に作成した「にいがた偉人かるた」と副読本を使用して、新潟の人の文化を知るための出前授業を学校向けや福祉施設向けに企画、活用を進めたい。

2015年度から新潟県立教育センターの既存キャリア教育推進事業「学ぼう新潟の知恵」の派遣講師（現『夢☆チャレンジ』）に学芸員が登録。学校の要請に応じて副読本を活用した出前授業に対応する。

連携・交流事業

【概略】

県内顕彰館または顕彰団体の出張展示への参加を促したい。出張展示では、各館単体では難しい展示や広報等のサポートをしていきたい。2022（令和4）年秋に始めたツイッターなどSNSも活用して、多様なアプローチで県内顕彰施設および団体との連携を強化していきたい。

(1) 第8回にいがた文化ネットワーク協議会の開催

2024（令和6）年度は第8回にいがた文化ネットワーク協議会を開催しなかったため、2025年度に第8回ネットワーク協議会を開催したい。

(2) 機関誌「にいがた文化 第11号」の発行

当館の2025年度事業報告と、県内顕彰施設や団体が実施する2026年度の催事紹介、協賛企業広告掲載などを予定。

顕彰人物選定委員会

【概略】

2024（令和6）年度も県内出身またはゆかりの文化人基礎データ構築作業を続ける。顕彰人物選定委員会の立ち上げや発足については、顕彰候補人物が増えて、データ構築が進んだ段階で、発足を目指したい。

【参考資料】

別紙1「2025（令和7）年度 事業計画案（詳細）」

別紙2「2025（令和7）年度 にいがた文化の記憶館 企画展示スケジュール・開館カレンダー」